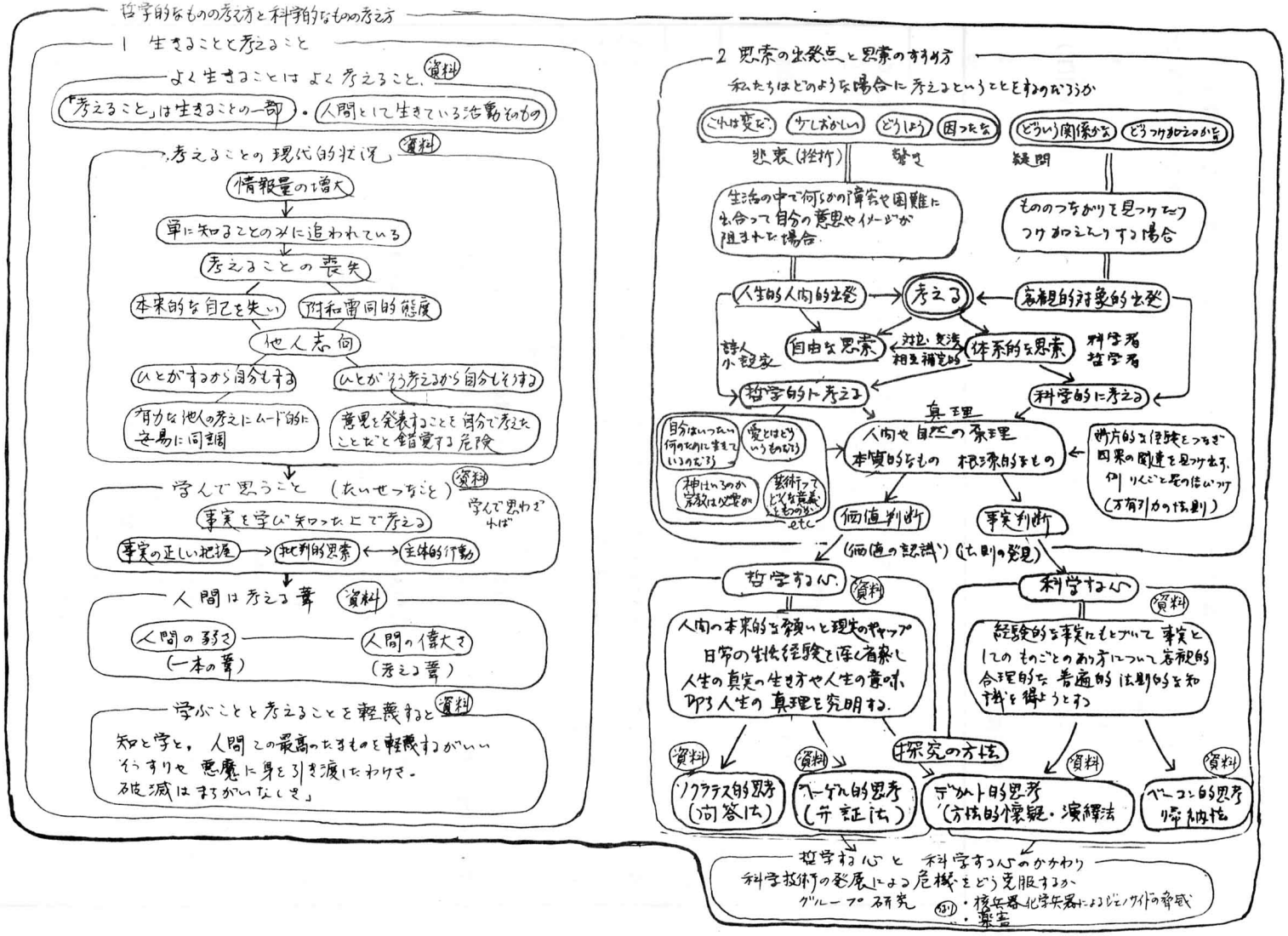
哲学的なものの考え方と科学的なものの考え方
1 生きることと考えること
よく生きることはよく考えること
資料
「考えること」は生きることの一部
人間として生きている活動そのもの
考えることの現代的状況
資料
情報量の増大
早く知ることの量に追われている
考えることの喪失
本来的な自己を失い
付和雷同的態度
他人志向
ひとがするから自分もする
ひとがそう考えるから自分もそうする
有力な他人の考えにムード的に安易に同調
意見を発表することを自分で考えたことだと錯覚する危険
学んで思うこと (たいせつなこと)
資料
学んで思わざれば
事実を学び知ったうえで考える
事実の正しい把握
批判的思索
主体的行動
人間は考える葦
資料
人間の弱さ (一本の葦)
人間の偉大さ (考える葦)
学ぶことと考えることを軽蔑すると
資料
知と学と、人間この最高のたまものを軽蔑するがいい
そうすりゃ悪魔に身を引き渡したわけさ。
破滅はまちがいなしさ」
2 思索の出発点と思索のすすめ方
私たちはどのような場合に考えるということをするのだろうか
ごみは変だ
ヤしおかしい
どうしよう
困ったな
悲哀(挫折)
驚き
(どういう関係かな)
(どうつながるのかな)
疑問
生活の中で何らかの障害や困難に出合って自分の意思やイメージが阻まれた場合
もののつながりを見つけたりつながろうとする場合
人間的人間的出発
考える
客観的対象的出発
詩人小説家
自由な思索
対立・矛盾相互補完的
体系的な思索
科学者哲学者
哲学的に考える
科学的に考える
真理
自分はいったい何のために生きているのだろう
愛とはどういうものなの
神はいるのか宗教は必要か
芸術ってどんな意義をもつのか
etc
人間や自然の条理
本質的なもの 根源的なもの
断片的な事実をつなぎ因果の関連を見つけ出す。
例 りんごと石のはいつか
(万有引力の法則)
価値判断
事実判断
(価値の認識) (法則の発見)
哲学する心
資料
人間の本来的な願いと現実のギャップ
日常の断片経験を深く省察し
人生の真実の生き方や人生の意味
即ち人生の真理を究明する。
科学する心
資料
経験的な事実にもとづいて事実としてのものごとのあり方について客観的合理的な普遍的法則的な知識を得ようとする
探究の方法
資料
ソクラテス的思考 (問答法)
資料
ユークリッド的思考 (弁証法)
資料
デカルト的思考 (方法的懐疑・演繹法)
資料
ベーコン的思考 (帰納法)
哲学する心と科学する心のかかわり
科学技術の発展による危機をどう克服するか
グループ研究
例 ・核兵器化学兵器によるジェノサイドの脅威
・薬害